

地域教育
情報紙(27年度)
第5号

風とあそび

平成28年1月12日発行
《担当》 富士・東部教育事務所
地域教育支援スタッフ
小林誠二・渡邊 聡・小俣義一

『風とあそび』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHP からご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 】

富士・東部教育事務所地域教育支援スタッフでは、

(1) 家庭、学校、地域の連携による地域ぐるみの教育活動の活性化を図る。

(2) 地域における体験活動・ボランティア活動の環境を整備し、地域教育力の活性化を図る。

を目標に掲げ、地域の教育力を高めるためのコーディネーターとして、家庭・学校・地域社会がお互いに連携を深め、青少年の健全育成のため活動しております。

まちづくりは人づくり、地域のこどもは地域で育てる !!

地域教育 明日の風 第2回理事会

北都留地域教育推進連絡協議会(会長:江口英雄上野原市長)は、平成27年11月26日(木)に北都留教育会館において「平成27年度第2回理事会・事務局・事業推進委員会議」を開催しました。

会議では、まず今年度の事業と会計の中間報告が事業推進委員長および事務局次長より報告されました。事業の中間報告では、「明日の風 総会・教育講演会」「三遊亭小遊三師匠とふれあう会」「夏休み親子教室」等、これまでの取り組みの具体的な内容、アンケートの調査結果、反省点および来年度への課題等についての説明がありました。会計の中間報告では、これまでの会計執行状況の説明がありました。また、平成28年度法令外負担金の申請について事務局より提案があり、提案通り承認されました。

平成28年度の定期総会等の日程については、例年通り理事会を6月中・下旬に、また、総会は7月上・中旬の開催を軸に今後調整することとなりました。

平成28年度以降の事業の見直し・追加については、「三遊亭小遊三師匠とふれあう会」について、当初の目的を概ね達成できたことなどから、しばらくの間休止すること。上野原高校が平成25年度から実施している「チャレンジ! 上高アニメーション」について、明日の風との共催事業とすることが、各担当者から説明・提案があり、提案通り承認されました。最後に、平成27年度の今後の予定についての確認がされ、「平成27年度第2回理事会・事務局・事業推進委員会議」は終了しました。

地域教育 明日の風
(北都留地域教育推進連絡協議会)
平成27年度 第2回
理事会・事務局・事業推進委員会議



わかづるサイエンスフェスティバル in 北都留SSS (10月10日)

日時 平成27年11月26日(木) 午後2時~
場所 北都留教育会館

花の里 北都留 !!

一人一花運動 フォトライブラリー展



「家庭で、学校で、地域で花を育て、花いっぱいの北都留にしましょう。花を育て、子どもたちの豊かな心を育てていきましょう。そして次代を担う子どもたちが健やかに成長するように豊かな心を育みましょう。」

北都留地域教育推進連絡協議会（会長：江口英雄上野原市長）では、子どもたちが未来に向かって「夢」や「希望」を持ちながら生きていくことが出来るように、地域の教育力向上を意図する「地域教育 明日の風」の活動の一環として「一人一花運動」を進めてきました。4月に北都留地区の全ての幼・保・小・中・高・支・大および主な構成団体と、小学3年生、保育所(園)・幼稚園の年長児全員に花の種約2,000袋を配布して、花が咲き、潤いのある環境づくりに取り組んできました。

配付された花の種は、各地でこころを込めて育てられ、今年も多くきれいな

花を咲かせました。その様子を収めた写真展『フォトライブラリー展』が、平成27年11月6日(水)から12月18日(金)まで、北都留教育会館で開催されました。

今年も多く保育所(園)・幼稚園・各学校から応募があり、教育会館はたくさんの花と子どもたちの笑顔に満ちあふれていました。



Dream Come True 「夢の実現」!!

第15回 小林雅英コーチ野球教室



北都留地域教育推進連絡協議会（会長：江口英雄上野原市長）では、平成27年12月12日(土)に上野原市桂川野球場において、大月市真木出身、元大リーガーで、現千葉ロッテマリーンズの小林雅英投手コーチによる野球教室を開催しました。今年で15回目となる同教室には、大月市・上野原市のスポーツ少年団の児童や中学校の野球部の生徒など約120名が参加。

小林コーチはあいさつの中で、「みなさんに大事にしてほしいことは、夢を持ち続けること。そしてその夢に向かって努力を続けることです。今後もがんばって甲子園やプロ野球で活躍する選手が出てくることを期待しています。」と話されました。

午前中は各年代別に分かれてバッティングやスローイング、守備の指導を受けました。また、午後からは小林コーチが各チームのピッチャーの投球フォームを細かくチ

ェックし、「軸足に体重をしっかりと乗せること」「投げ急がずに自分のリズムで投げるように」などと丁寧に個別指導して頂きました。じゃんけんゲームでは小林コーチのサイン入りユニフォームやボールがプレゼントされました。

参加した子どもたちは、憧れの大投手小林雅英コーチの指導を熱心にうけて、今後さらに努力を重ね、各チームで活躍することを誓っていました。とても有意義な一日となりました。



地域の青少年支援を目指すネットワークづくり !!

南都留教育相談ネットワーク会議



南都留地域推進連絡協議会(会長：渡邊綱男船津小学校長)では、平成 27 年 12 月 9 日(水)に「第 2 回南都留教育相談ネットワーク会議」を、南都留合同庁舎大会議室において開催しました。今回は、上野原市教育委員会社会教育課青少年地域カウンセラー 市川幸子さんと、富士・東部保健福祉事務所健康支援課長 飯島俊美さんの実践発表をもとに、研究協議が行われました。

市川カウンセラーの実践発表では、上野原市における青少年地域カウンセラーの業務についての説明につづいて、具体的な相談事例を用いて、カウンセリング対象者だけでなく、保護者など本人を取り巻く環境への働きかけによる

「間接的な支援」や、「仕事をしたい」「運転免許を取得したい」という「本人の意欲」を引き出すことが大切であると説明されました。また、飯島課長は、このようなネットワーク会議を通してお互いが顔見知りになり、情報交換ができ、必要な時にタイムリーに連絡が取れることの重要性を強調されました。また、「保健福祉事務所では、必要なときに必要な機関・サービス・人へつなぐことができる。福祉保健事務所を大いに活用してほしい。」と話されていました。第 3 回は 2 月 3 日(水)に開催の予定です。

地域の実態にあった中・高の効果的な連携を探る !!

生徒の健全育成をめざす中・高連携連絡会議

南都留地域推進連絡協議会(会長：渡邊綱男船津小学校長)では、平成 27 年 12 月 14 日(月)、都留興譲館高校において、「第 15 回生徒の健全育成をめざす中・高連携連絡会議」を開催しました。同連携連絡会議は、旧都留学区の都留市・西桂町の実態にあった中学教育と高校教育の効果的な連携を探るとともに、一層の理解と推進を図り具体的な取り組みを検討することを目的に、平成 13 年度から始まりました。同会議では「各学校の情報交換、現在抱えている問題点や取り組み等の報告」と、「将来的なビジョンの検討、人的交流の推進、相互理解と相互連携協力事業の開拓」について話し合われます。

はじめに、今年度末に谷村工業高校と桂高校が閉校となり、来年度



以降高校の参加が都留興譲館高校のみとなりますが、同会は今後も継続して開催されることが確認されました。続いて、各学校の今年度の取り組みや現状と課題について報告がされました。携帯電話やスマートフォンの指導方法や、不登校傾向にある生徒への対応などが話題として取り上げられ、各校の状況や取り組み・対応について情報交換を行いました。また、具体的な連携活動の取り組みについては、「高校での体験学習を中学の早い段階から実施」「道徳教育の連携」「出前授業や部活動の連携」「教科ごとの合同シラバス検討会」等について意見が交換されました。



児童生徒連絡協議会の取り組み !! 各地区の『首長さんと話す会』

第43回市長さんと話す会 『私たちの考える 心を伝え合う街づくり』 2015年児童生徒テーマ『美しい富士山のふもと 心を伝え合う 富士吉田へ』



【富士吉田市 市長さんと話す会】

富士吉田市児生連では、平成 27 年 11 月 4 日(水)に富士吉田市産業会館において、第 43 回「市長さんと話す会」を開催しました。富士吉田市内の小中学生と近隣の高校生ら約 50 名が集合。「私たちの考える 心を伝え合う街づくり」のテーマにもとづき、「心を伝え合う学校づくり」「心を伝え合う街づくり」について、市長さんをはじめ市役所各課代表の方々を交えて、活発な意見交換が行われました。また、「心を伝え合う街づくり」のために、今後も地域の行事やボランティア活動に積極的に参加することが確認されました。

【富士河口湖町 町長さんと語る会】

富士河口湖町児生連では、平成 27 年 11 月 5 日(木)に富士河口湖町役場において、「町長さんと語る会」を開催しました。当日は、各学校の児童会・生徒会代表者ら約 50 名が参加。「アイスブレイク」で緊張をほぐした後は、「我が校の自慢」と取り組みについての発表がありました。続いて「リーダーとして必要なこと」について活発な意見交換を行うとともに、町長さん・教育長さんから「リーダーとしてのあり方」について話をさくことができました。



【都留市 都留リーダーサミット】

都留市児生連では、平成 27 年 11 月 13 日(金)に都留消防署において、「都留リーダーサミット」を開催しました。当日は、都留市内の小中高の児童会・生徒会代表者ら約 40 名が参加。「私たちにできること ~やさしさと元気のまち都留市へ~」のテーマにもとづき、「川や水路の水をきれいにするためには」について話し合いが進められました。3 班に分かれて、熟慮・討議を重ね課題や解決策を見いだす「熟議」の手法で一人一人が意見を述べ、考えを深めました。最後に話し合いの結果をまとめて、各校に持ち帰り、今後の校内活動に生かすことが確認されました。

都留リーダーサミット



なかよしいっぱい大作戦 !!

西桂保育所・西桂小学校

秋まつり・やきいもパーティー



西桂保育所(加藤なお美所長)と西桂小学校(石井明宏校長)では、平成 27 年 11 月 17 日(火)に「秋まつり・やきいもパーティー」を西桂小学校において開催しました。まず、体育館で 2 年生 36 名が計画・準備した「ゲーム大会」に、1 年生 33 名と年長児 32 名がペアになって参加。「ペットボトル倒し」や「宝探し」の手作りゲームを楽しみました。

やきいもパーティーでは、2 年生が春から育ててきたさつまいもを落ち葉を集めて焼いて全員でおいしくいただきました。保育所でも教育ファームでさつまいもを育てていましたが、今年は不作だったので年長児にとってはことのほか嬉しかったようです。本格的なやきいも体験は初めてで少々びっくりした子どももいましたが、顔も手も真っ黒にしながらいよいよおいしそうに頬張っていました。

子どもたちは今回の行事を通して、友達と協力し合うことで自分や友達の良さに気付いたり、異年齢と交流して協調性や主体的に友達と関わろうとする姿勢を養ったりしました。また、ものをつくる楽しさや食べ物大切さを学ぶことができたようです。



勤労体験を通して思いやりの心を育む !!

富士北稜高等学校

在宅訪問活動

県立富士北稜高等学校(宮下仁校長)では、平成16年の開校以来、富士吉田市社会福祉協議会や福祉課と連携して「在宅訪問活動」を、毎年実施しています。「市内在住の一人暮らしや要介護の高齢者宅を訪問し、草取りや窓ふき等の作業を行い高齢者と語り合うことによって、交流を深め、勤労体験を通して思いやりの心を育み、社会福祉に貢献できる自覚を高める」ことを目的に、今年度も7月と11月の2回に分けて、のべ約190名の生徒・職員が約40軒を訪問。希望者も約220名と年々増加傾向ですが、特に複数回参加を希望する生徒が増加しており、同活動の目的と意義が着実の生徒に浸透している様子を窺うことができます。

平成27年11月27日(金)には、今年度2回目の「在宅訪問活動」が実施さ



れました。年末のため、換気扇や風呂の掃除、庭の落ち葉拾いなどを中心に作業が行われました。参加した生徒からは、「一人暮らしの高齢者の大変さが実感できた」、「高齢者の方に喜んでいただけて嬉しい」、「自分のささやかな力が地域に役立って良かった」、「戦時中の話や昔の吉田の街の様子を聞くことができた」等の感想が寄せられました。

担当の福祉教養部主任坂本洋子先生は、「参加した生徒達は皆新鮮な、そして充実した気持ちで帰ってきます。また、活動後には、参加した生徒達は高齢者の皆さんに手紙を送ることも、毎回欠かさず行っています。今後もこの活動を続けていき、一人でも多くの生徒が、思いやりの心と社会に貢献する態度を養ってほしい」と願いを込めていました。



1年間の取り組みを発表 !!

上野原高等学校 第5回総合学科発表会

県立上野原高等学校(田口尚弥校長)では、平成23年度から県内初の進学型総合学科高校に改編され、生徒一人一人のキャリア教育に対応した「ドリカム=システム」を実践しています。同校総合学科の特色は、「科目群」という考え方を採用し、生徒一人一人が描く多様な夢の実現をサポートする点にあり、生徒は様々な体験を通して、自らの夢を見つけ、育み、実現を目指しています。

平成27年12月19日(土)には、各学年の今年度の取り組みを発表する第5回総合学科発表会が教育関係者、地元や近隣の中学生、保護者、同校生徒らが出席して、同校体育館で開催されました。当日の発表内容は次のとおりです。

【総合学科の紹介】

【JRC(青少年赤十字)部発表～防災教育研修発表～】

【発表】 1年次：「ドリームスピーチ」

「あきらめない夢」「自分で造る未来」

【発表】 2年次：「インターンシップ」「課題学習」

「『インターンシップ』について」

「『課題学習』・・・『再生するプラナリア』について」

【発表】 3年次：「課題研究」

「自殺の増加と心のケア」「ドローンの可能性」

「非正規雇用の現状と展望」

【パネルディスカッション】

「18歳選挙権について」

【全校合唱】

上野原高校校歌を混声合唱で披露



富士山を学び、防災意識を高めよう！！

第5回 富士北麓科学塾

平成27年12月12日(土)に富士学苑中学校・高等学校において、第5回富士北麓科学塾が行われました。同科学塾は「富士の裾野の子どもたちに科学の楽しさを知ってもらおう」と平成23年に富士北麓地域の小中高の理科教員が校種や公立・私立の枠を超えて結成。これまでに「ノーベル物理学賞受賞者・小柴昌俊先生の講演会」「電子顕微鏡や光学顕微鏡による観察会」「風力発電や太陽・燃料電池の実験」「環境問題について」などを年1回のペースで開催してきました。

今年も「富士山を学び、防災意識を高めよう！」と題して、活火山である富士山を知り、地域防災に役立てることを目的に、富士北麓地域の小学校から高校までの児童・生徒や教員、合わせて93人が参加。

「火山・地震の講義」「火成岩の観察」「噴火・地震の実験」「防災トランプ」等、理科と

防災をつなぎあわせた内容を学びました。

特に小麦粉を使った「火山噴火の再現実験」では、混ぜる水の量を変えることによって、火山の形状や溶岩の性質を学び、またペットボトルに入れた砂と水を使った「液状化の再現実験」では、砂が少しぬかるんだ状態のペットボトルを左右に振り続けて液状化を再現するなど、小学生・中学生・高校生の混成グループで和気あいあいと楽しく実験することができたようです。最後に「防災トランプ」や「ハザードマップ」を使って地域の危険を知り、これからできる防災や減災などの災害対策について意見を交換しました。



知力の格闘技！ 真摯なものづくりで初V！！

谷村工業高校 **プログラミングコンテスト** **全国制覇**

県立谷村工業高等学校(菊池敏彦校長)電子工学科3年生5名は、平成27年11月21日(土)に埼玉県さいたま市で開催された全国情報技術教育研究会主催「第36回全国高校生プログラミングコンテスト・全国大会」において、悲願の初優勝を成し遂げました。このコンテストはチェイサーオンラインと呼ばれる王将だけで戦う将棋のような競技を、人間ではなく自作のコンピュータープログラム同士で戦わせ、その強さを競うものです。

全国から46チームのエントリーがあり、8月に1次予選、9月に2次予選と駒を進めるごとにプログラムを改良し順位を上げていきました。全国大会では準決勝において昨年度優勝校に挑戦で競り勝つなど、手に汗握る展開で最後の決勝戦に臨みました。決勝戦では、前半戦終了時には到底取り返すことのできないほどのマイナスポイントを付けられましたが、後半戦に入り、粘り強い動きで相手のミスを生かして、奇跡的な大逆転劇で優勝をつかむことができました。

参加した生徒は「基本的に忠実に美しいプログラムを作

製する事を心がけた。」「他のものづくりと同様に考え、動作試験をとにかくどの学校よりもやったと思う。」「プログラムが賢くなるにつれてバグ(誤動作)が出づらくなるが、それでも条件を変えて動作試験を繰り返すとバグが出て、バグが出たらみんな喜んで直した。」と開発の日々を振り返ります。今年度末に閉校となる同校120年の歴史に、「全国制覇」という輝かしい1ページを刻むことができましたが、谷村工業高校の「地域のものづくりを支える人材育成」の精神は、来年度からは都留興譲館高校へと引き継がれます。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。】

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/index.html> 【

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めて参ります。各事業についてご意見ご要望がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

連絡先 富士・東部教育事務所 地域教育支援スタッフ 0554-45-7841